

# 飯島町の歴史・文化財トピックス

## ■飯島陣屋で映画ロケ



張り詰めた空気の中で演じる子役

見学者が集まりました。いろいろにかかる鉄瓶の湯気の具合まで調整して、監督の「本番!」「カット!」の声が館内に響きました。

平成18年11月、飯島陣屋で映画の一場面の撮影が行われました。映画は町内在住の後藤俊夫監督による伊那谷の村歌舞伎をテーマにした「Beauty～美しきもの」。主人公たちが子供時代に師匠から踊りを習うシーンです。俳優・子役のほか町内のエキストラも参加し、大勢の

## ■子どもたちが陣屋で二泊三日

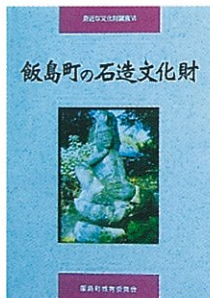


朝、飯島陣屋から学校へ通う子供たち

照明設備がろくになく、ろうそくの灯りで詩の朗読、かまどというりて煙にむせながらの調理、しかも火起こしは火打石だけ、化学調味料一切なしの粗食をお膳でいただき、朝は5時起きでぞうきんがけやトイレ掃除と、つらい3日間現代っ子はイヤになったかと思いきや、「もっと泊まりたい」「また来年も参加する!」と、不便を逆に楽しんだ様子でした。

平成17年度に続き、18年度にも「飯島陣屋通学塾」を開催しました。町内の小中学生が飯島陣屋で二泊三日の共同生活をしながら昼間は学校に通うという「体験学習塾」です。江戸時代の雰囲気の中で日常体験といえ

## ■『飯島町の石造文化財』発売中



読みやすいと好評です

文化財という「珍しい」とか「高尚なもの」と思われがちですが、案外身近にもあるものです。飯島町教育委員会では、そんな身近な文化財のなかで石仏や石碑をテーマにした本を刊行しました。人の幾世代分もそこに立ってふるさつを見つめてきた石仏たち。先人たちのどんな願いを聞いてきたのでしょうか。そして未来の子供たちはその姿に何を感ずるのでしょうか。身近にあるのに名前も知らなかった石仏たちがこの本でわかります! 1冊2,000円。飯島陣屋でお求めください。

## ■飯島氏顕彰会の活動盛ん



会場いっぱいの聴講者が集まった講演会

飯島町の町名は、鎌倉時代から戦国時代に「飯島氏」が勢力を及ぼした地域が「飯島郷」と呼ばれるようになったことに由来しています。飯島氏顕彰会は平成17年8月に発足し、飯島氏の歴史研究や、飯島姓発祥の地の一つである飯島町のPRをしている町民有志の会です。講演会・飯島城見学会・古文書展示会を開催しています。また、飯島氏の一族が出雲国に分かれて室町時代に出雲一の武将となった三沢氏の史跡が残る島根県出雲町との交流もおこなっています。あなたもお仲間に入りませんか? (お問合せ先: 飯島紘さん ☎0265-86-3526)

## ■針ヶ平第一遺跡の石器に注目



針ヶ平第一遺跡で出土した石器

近年、飯島町七久保の針ヶ平第一遺跡から出土した石器が関係者の注目を集めています。これらの石器は昭和61年に出土し、旧石器時代(先土器時代)の25,000~30,000年前のものでは?と考えられています。この時代の遺物は出土例が少ないためナゾだらけです。近年、飯島市の竹佐中原遺跡で同時代の石器が大量に出土したことにより、比較資料となっています。陣屋館に展示していますが、同館は予約により開館していますので、ご覧になりたい方は、あらかじめご連絡の上ご来館ください。

## ■大人気! わらじクラブのぞうり



カラフルな「布入りわらぞうり」

わらじ細工技術の継承を目的に飯島陣屋で活動している「わらじクラブ」が製作した「布入りわらぞうり」が大人気です。布ぞうりは全国的にブームのようです。わらくずが出ないのでスリッパ代わりに屋内で履いてもOK。流行の5本指ソックスとコーディネートしてください。1足800円。わらじクラブでは、ご注文により各種のわらじ細工も製作しています。



お代官様の部屋で百人一首!

## そうだ、冬季休館を逆手にとろう!

平成17年度から飯島陣屋は冬季休館制(12/15~3/14)となりました。とはいえ3日前までに見学の予約をいただければその時間は開館しています。つまり、日時を予約すれば貸し切りなのです! 見学だけではありません。平成19年3月、飯島中学校は館内で「百人一首交流会」を開きました。ふすまを取っ払うと広く使える本棟造りの特性を活かして、生徒さん70人が日本の文化=百人一首に興じました。感想を聞くと、畳の上でやれて学校の体育館より気分も乗ったそうです。たとえば、最大43畳半になる畳敷きの部屋を使った学習会・お茶会・邦楽演奏会。また、いろいろ・かまどを使った昔ふうの調理体験など。歴史や伝統文化に関する学習会や体験会などにはご利用いただけるようにしたいと考えています。冬の館内は少々寒いですが、江戸時代なら当たり前。ご希望がありましたら、お早めにご相談ください。

# 飯島陣屋だより

No.13  
2007.3

発行/飯島町歴史民俗資料館 〒399-3702 長野県上伊那郡飯島町飯島2309-1 TEL 0265-86-4212

## 村の4分の3が 飯田藩に移管!

### 村人の胸の内はいかに

### 御料の百姓でいたい

天保14年(1843)、飯田城主堀親善が2万石から2万7千石に増えることとなった。これにより飯島陣屋の支配地や阿島(現喬木村)に陣屋をもつ旗本知久氏の預かり地から7千石の村々が飯田藩に支配替えを仰せ渡された。下伊那の山がちな村が多かったが、やや飛び離れた田切三ヶ村(現在の飯島町田切区)も含まれていた。

田切の村人は皆、できることなら飯島陣屋支配の幕府領百姓で居続けたかった。なぜなら飯田藩へ移管となれば負担が増すことは目に見えていた。領主に納める年貢ばかりではない。支配役所が半里先の飯島から6里先の飯田に変わると村役人の宿泊費などがかさみ、村入用(村の運営費)にも響いてくる。

金銭面とは別に「気持ち」の問題も大きかった。当時は「私領より御料のほうが格上」という常識があった。「私領」とは大名・旗本の知行地をいい、「御料」とは幕府直轄領をさす。飯田城主堀家の百姓でいるよりも將軍徳川家の百姓でいることに優越感を感じていたわけだ。

### 村が裂かれる

ただでさえよしてほしい所管替えなのに、田切三ヶ村にはさらに困ったことに、1242石余の村域全部ではなく、950石余を移管せよと命じられた。つまり三ヶ村のうち約4分の3が飯田領に裂かれ、残りは引き続き幕府領ということなのだ。田切三ヶ村

とは、田切村のうちの南割・中平・北河原の総称。制度上はそれぞれが1つの村の体をなしていたが、村人の生活にかかわる用水路の管理、入会地の利用、道普請や橋の修復などは田切全体で取り計らい、三ヶ村は鎮守の宮を中心に一体感を持っていた。この産土神は今も田切区民に親しまれている日方磐神社。地理的にもちょうど三ヶ村の境界が交わる中心に鎮座する。

もちろん村は撤回を嘆願した。しかし聞き入れられることはなかった。その結果村が裂かれてしまった三ヶ村は、その後明治初年に分郷が解消するまで狭い地域内でぎすぎすした付き合いを余儀なくされ、苦難の歴史を歩んだのだった。

### 頭を下げない御料所百姓

さて、所管替えとなる7千石の村々の引き渡し式。これから式が始まる飯田伝馬町の御会所には、おごそかに御献上の幕が張られ、飯島陣屋の元締手代と書役、飯田藩郡奉行以下代官や手代たちが東を向き、引き渡される村の名主たちが西を向いて居並んだ。なのにこの場面、古文書には「はなはだ御料所(幕府領)百姓ゆえ頭を下げ申さざることに候」とある。上のイラストはその想像図。古文書は田切村中平の名主利兵衛が移管の経過を書きとめた「堀大和守様御加増知御引渡一件書留帳」。

まず飯島陣屋の元締手代が口火を切った。「かねて申し渡し候とおり今般お引き渡し申し候、右お請け申すべく候」。皆々かしこまり入り、飯田藩から返答があった。つぎに飯田藩郡奉行が村役人たちに仰せ渡した。「このたび江戸御奉行所より御加増地としてその村々仰せ付けられ候につき、惣方お請け致すべく候」。名主たちは「ハア」と言うばかりでうつむき合って、ありがたく…と申す者は一人もいない。いらだったのか飯田藩手代がきびしく「お請けをいたさす!」と申し渡した。村役人たちはまた「ハア」とばかり。ただ今度は少々頭を下げたことだった。



田切の鎮守、日方磐神社



# 飯島町発足50周年の平成18年、駿府紺屋町陣屋から信州飯島陣屋までの60里を踏破しました

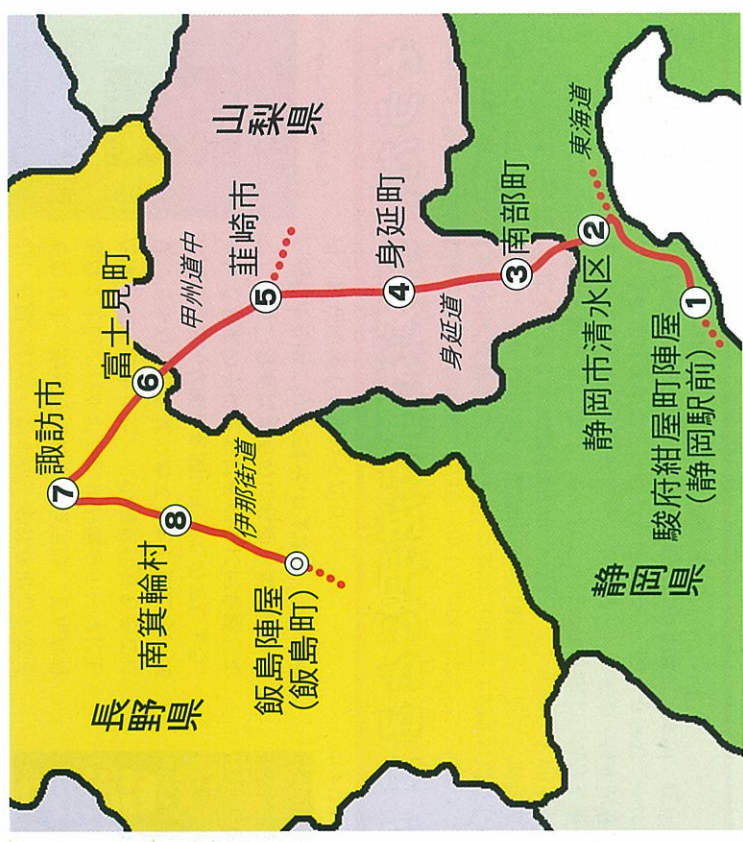


飯島陣屋は、1677年に成り立ち幕末まで存続した江戸幕府の代官陣屋です。1795年以降、飯島陣屋の代官は駿府紺屋町陣屋（現静岡市）の代官が兼任することとなったため、代官行列がしばしば駿府・飯島間を往來しました。この史実に基づき、飯島町発足50周年を迎えた2006年、お代官様が行った静岡市から飯島町までの240km（60里）を歩いて歴史を体感しようと計画されたのが「信州いじま陣屋ウォーク」です。

全行程を4月から10月まで8回に分けて歩き継ぐこととして町民に参加を募ったところ、10歳代～70歳代のなんと104人も申し込みがありました。飯島町の人口は1万人余りですが、人口の約1%が歴史をネタに元気を出そうという大イベントになりました。

毎回朝4時（3時のときも）に集合してバスでその日の出発地へ移動し、体力に合わせた3つの班に分かれて歩きました。昔は1日に40km（10里）ほど歩いたようですが、現代人は30km前後（7～8里）で挑みました。数人は江戸時代の旅人さながらのいでたちで治道の注目を集めました。さすがに足元は草鞋ではなくウォーキングシューズでした。それでも、雨も降るし日も照るアスファルトの道はつらいもの。毎回、到着地では温泉で疲れを癒し、ビールで親睦を深めるのも楽しみでした。全8回無事故で、忙しい現代人ですが32人が全行程に参加して240kmを踏破しました（拍手～！）。

# 信州いじま陣屋ウォーク



陣屋ウォークのルート

第7回（9/10）：諏訪市～南箕輪村（35km）いよいよ伊那谷！天竜川沿いを南下



第6回（8/20）：富士見町～諏訪市（31km）猛暑（残暑？）の日、木陰がありがたい



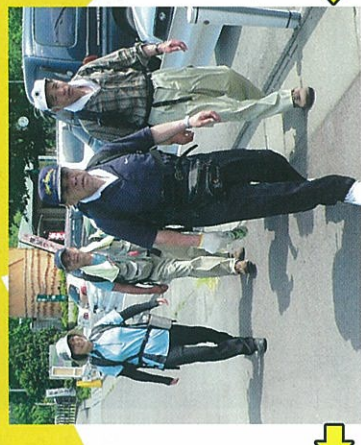
第5回（7/23）：韮崎市～長野県富士見町（28km）甲州道中を信濃へ向かいます



第4回（6/25）：身延町～韮崎市（31km）甲府盆地を目指し、身延道を北上



第3回（6/11）：南都町～身延町（26km）梅雨空でしたが笑顔でがんばりました



第2回（5/21）：清水～山梨県南都町（27km）駿河から甲斐へ（手前は町長さん！）



第1回（4/29）：駿府紺屋町陣屋～静岡市清水区（31km）駿府紺屋町陣屋跡の料亭「浮月楼」で記念撮影